

令和5年度小平市立小平第五中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

ほとんどの領域において、都平均と同等か上回る正答率であった。特に、思考力・判断力・表現力等を問う問題（1 四や3 四）は都や全国を大きく上回っており、授業の中で自らの考えを表現する機会を多く設けてきた結果が出ていると言える。一方、漢字の問題では都や全国平均を下回った。

課題

漢字を書く設問から、適切な漢字を選び書く力を身に付けさせることが必要であると分かる。毎回の授業で取り組んでいる漢字の学習を継続するとともに、適正な漢字の使い分けを行う学習を積み重ねることが肝要である。

学校で取り組む具体的な改善策

これまでに実施してきている文章を書く機会を今後も継続しながら、その中で適切な語彙、漢字を使う必要がある。学習した漢字を文章内で使うためにも日頃の課題や学習活動において、自分の考えを記述する機会を多く設定し、3年間の学習を通じて条件作文や要約、意見文、小論文など様々な種類の文を書く経験をさせていく。

【数学】

状況の分析

学習指導要領の領域別の正答率については、全ての領域において全国平均を上回っている。都平均と比較すると関数とデータの活用に関課題を感じる。問題形式別では、全ての項目で全国平均を上回っている。しかし、都平均と比較すると選択式の短答形式に関課題を感じる。

課題

学習指導要領の領域別では、関数とデータの活用が都平均を下回っている。また、評価の観点別では、知識・技能が都平均とほぼ同じ正答率であり、思考・判断・表現は都平均を大きく上回っている。その一方で、知識・技能の習得がおろそかになっている面もあると考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

授業において、主体的に学習に取り組むことのできる環境づくりをしていく。個人での学習だけでなく、友達同士で教え合う協同学習や調べ学習を行うなど ICT を活用するような授業を行う。しかし、その中で基礎・基本となることはしっかりと定着させる。また、関数やデータの活用では、身近な出来事からそれぞれの領域につなげることや ICT を活用するなどして興味・関心を引き、内容理解につなげる。

【英語】

状況の分析

課題

本校生徒の正答率は全国平均を上回ってはいるものの、都平均と比べると3ポイント下回っている。領域別に見ると「書くこと」において都平均を5.1ポイント下回り、問題形式別に見ると「短答式」「記述式」の正答率がいずれも都平均より5ポイント程度下回っていることが分かる。

母国語での思考が確立している中学生が語学を習得するために必要な「丁寧な説明→定着→実践練習」をバランスよく組み合わせたり、既習事項を意図的に繰り返し使用させたりしながら、書く活動を意識的に取り入れ、授業を組み立てていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

1, 2年のときから聞いたり読んだりしたことを英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動を中心に、生徒の理解度に合わせた授業展開、全員が無理なく取り組むことができ、基礎・基本が定着するような授業や教材開発を行っていく。ICTの活用が求められる時代だが、ICTを活用しつつ書くことを疎かにせずに十分に授業に取り入れていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

「自分に良いところがあると思いますか」に肯定的な回答をした生徒は80%を超え、都平均・全国平均を上回っている。一方で「困りごとや不安をいつでも大人に相談できますか」に「当てはまる」と答えた生徒は都・全国平均よりマイナス10.3ポイント、「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか」に「そうしている」と答えた生徒はそれぞれ都・全国平均と比べて9ポイント程度低くなっている。

都や全国の平均と比べて、自己肯定感は決して低い子どもたちであるが、昨年度に引き続き、学校にいる大人に困りごとや不安を相談しにくい状況も見受けられる。また、規則正しい生活ができていない生徒も増えているようである。「学校が楽しい」と思える生徒の割合も都や全国平均を8ポイント程度下回っている。生徒と教員の信頼関係を深めていくことと、規則正しい生活リズムを整えさせることが直近の課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

中学生という時期において、自分の所属する組織のルールや規則をしっかりと守る経験を積ませることは非常に大切であると考えます。一方で、指導をする際にどれだけその子どもに寄り添い、納得させる指導ができるかが、生徒と教員の信頼関係を深めるための鍵となる。子どもたちの話に耳を傾け、大人の考えをしっかりと伝え、寄り添うところは寄り添い、悪いことに対しては毅然とした態度で指導を行うようにして、子どもたちとの信頼関係を築いていく。また、昨今、デジタルデバイスの普及等により、生活リズムを崩す生徒が増えている。機器の使用方法を含め、デジタルリテラシーを高めるような指導を継続して行っていく必要がある。